

二〇一三年 七月

「今月の言葉」と「今月の聖語」についての紹介

今月の言葉

あやまちを指摘する人は宝のありかを知らせる人

『法句経』

ほ っ く き ょ う

怒られたり、注意されることは気持ちのいいものではありません。もつともなことを言われているのに、素直にそのことに従わないときがあります。もしかすると、「なぜ自分がそんなことを言われなければならないのか」と、腹が立つことさえあるかもしれません。

しかし指摘は悪口ではありません。指摘する人は何もあなたのことを傷つけようと思っているわけではないのです。むしろあなたに足りないことを教えてくれていると考えるべきでしょう。

あなたにとって一生涯の宝となるような大切なことを教えてくれる人は、意外に身近にいるあなたを指摘してくれる人なのかもしれません。

今月の聖語

人生には無駄なこと何一つありません

ひ ゃ ん の せ ん じ

平野恵子

平野恵子さんは、三十九歳の時末期癌の告知を受け、四十一歳の時この世の命をえられた方です。自分の子どもたちに、次のようなメッセージをのこされています。これを紹介文に代えさせて頂きます。

「人生には、無駄なことは、何一つありません。お母さんの病気も、死も、あなた達にとつて、何一つ無駄なこと、損なこととはならないはずですよ。大きな悲しみ、苦しみの中には、必ずそれと同じくらい、いや、それ以上に大きな喜びと幸福が、隠されているものなのです。素行ちゃん、素浄ちゃん、どうぞ、そのことを忘れないでください。たとえ、その時は、抱えきれないほどの悲しみであっても、いつか、それが人生の喜びに変わる時が、きっと訪れます。深い悲しみ、苦しみを通してのみ、見えてくる世界があることを忘れないでください。そして、悲しむ自分を、苦しむ自分を、そっくりそのまま支えていくくださる大地のあることに気付いて下さい」

合掌

宗教教育係